



## きぼうの桜計画とは

一般財団法人ワンアースが推進する東日本大震災復興・伝承事業。

若田光一宇宙飛行士とともにその種が宇宙を旅した日本各地の巨大桜の直系子孫(宇宙桜)を津波到達点上に植え、千年風化しない避難の目印として、そして宇宙からも見える復興のシンボルとして、この星の子孫たちに残す事業。

東北三県被災地(約 40 都市)を中心に実施が計画されており、全被災都市への植樹を目指す。2023 年 2 月までに 17 都市で植樹完了(添付図参照方)。

近年は兵庫県南あわじ市(2019.2.18)、埼玉県吉川市(2019.4.6)、山形県米沢市(2019.10.19)、大阪府寝屋川市(2020.2.21)、山形県飯豊町(2020.10.31)、大分県竹田市(2021.2.5)、埼玉県さいたま市(2022.5.1)、新潟県糸魚川市(2023.5.9)など未来の子孫を守る防災減災目的で参加する都市も現れはじめた。

【宇宙桜とは】 2008 年に有人宇宙システム株式会社(JAMSS)が行った宇宙文化事業「花伝説・宙へ!」により誕生した桜。日本各地で少年少女らの手によって集められた千年級の名桜(山高神代桜、三春滝桜、根尾谷淡墨桜、醍醐桜、ひょうたん桜、角館武家屋敷枝垂桜など)の種が、若田光一宇宙飛行士とともに国際宇宙ステーション「きぼう」に8ヶ月半(2008.11/15 から 2009.7/31)滞在し、地球帰還後にそのごく一部が発芽して「宇宙桜」が生まれた。同宇宙事業を発案した長谷川洋一が、2015 年に一般財団法人ワンアースを設立した。宇宙桜の苗は現在でも稀少な宝物だが、ワンアースの呼びかけに応え、東北復興のためならば、と苗元各地は苗を増やし贈呈準備をしている。

### 【千年の津波の教訓は、千年の桜で伝承する】

宇宙桜は、樹齢千年級の名桜の直系子孫なので、大切に養育すれば三十一世紀まで生き続け、変わらぬ避難の目印として、大災害の記憶と教訓を伝承できる。

### 【名桜は風化しない、成長する】

宇宙桜は 30 年で大樹に、100 年で宇宙ステーション軌道から視認出来る巨大さ(高さ・枝張りとも 30 メートル級)に成長する。コンクリート等の人工物よりも風化しにくいモニュメントと言える。巨樹に育て上げるために、20 メートル四方程度の広い公共の土地を確保し、ツツジ等の低木でハート型の柵を作り、その中心に宇宙桜をただ 1 本植える。ハートの先端は、苗元の方角を指す。一本有るだけでツーリストが殺到するような桜は被災地全域を繋ぐスケールの大きな観光資源となろう。

### 【広域交流こそ再生の切り札】

対外交流は地域再生の起爆剤となる。本事業では参加する多数の地域がネットワーク的に交流する機会として「サミット」を毎年持ち回りで開催する。このサミットには首長級が多く参加し、桜とともに末永く息づく交流の礎とする。次世代をになう中高生も楽しみながら参加できるような共通文化として、歌や物語りを創造し、大震災の記憶と教訓を、風化しにくい形で後世に伝承していく。

### 【お問い合わせ】

一般財団法人ワンアース 代表理事 長谷川洋一 (090-9230-8586)

[hasegawa@the-one-earth.org](mailto:hasegawa@the-one-earth.org)

詳細情報はワンアース HP ご参照方 <http://www.the-one-earth.org/jp/>

ワンアース HP の写真・情報等のご自由にお使いください(申請不要)